

本セッションは、ミクロキスティンに関する報告5編、濁度障害藻類に関する報告1編があった。

3-H-10-4 は近年開発されたリン酸銀をベースとする可視光応答型光触媒を用いて、ミクロキスティンの分解を試みたものであり、良好な分解が見られたことを報告している。今後は実用化に向けた展開を期待したい。

3-H-11-1 および 3-H-11-3 では、水の電気分解における酸化力を用いて藻類を抑制する試みが報告され、ともに、ミクロキスティスの増殖とミクロキスティンの産生を抑制できるとしている。

3-H-11-2 では、攪拌子を工夫した乱流混合装置を用いてミクロキスティスの増殖抑制を試みており、生長阻害が可能で、毒素溶出も抑制できていることから、有望な方法であると報告している。

3-H-11-4 は、浄水処理における生物処理におけるミクロキスティンの分解を評価する試みであり、生物膜中のミクロキスティン分解遺伝子を定量して考察を加えている。

3-H-12-1 は、濁度障害としての微小藻類に関する研究であり、浄水の処理工程ごとの水に含まれるピコプランクトンの存在状況を分子生物学的手法により明らかにしており、濁度障害を引き起こす可能性のある藻類の種類を推定している。

以上のように浄水における藻類の幅広い試みが紹介され、実りある議論が繰り広げられた。

(東京大学 片山 浩之)